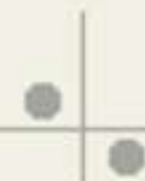


**21世紀に夢開く****スタートは「町づくり」から**

羅臼町の若い漁師たちが設立したベンチャー企業「らうす海洋深層水」は、新世紀に入り更に事業を増進する。昨年暮れには、北海道の未来を担う夢ある企業として読売新聞社が主催する「北のくらし大賞」の奨励賞を受賞した。

基幹産業の漁業が年々落ち込んでいくなかで「元気がある町をつくるためには、新しい産業を興さなくては」という志のもと、地元羅臼の深層水の研究を始めたのは5年前。中心となったのは羅臼漁協青年部に所属する若者たちだった。

—昨年11月、6人の若者が取締役となって会社を設立したが、「最初はなにも分からなかった」と社長の湊屋稔さん(37)は当時を振り返った。

試行錯誤を続けながら、ミネラルウォーターを商品化させたのが昨年7月。

会社の概要は、役人6人、正社員5人、パート従業員4人。菓子類やラーメンの原材料として販売を伸ばしているほか、ホームページを開設し、通信販売を利用する固定客も着実に増えてきている。さらに「深層水を使った商品を開発したい」と食品メーカーからの問い合わせも相次ぐようになった。

今年2月からは、天然塩の製造・販売を計画している。また、現在使用している簡易取水施設を本格的なものにすることを計画するなど、その心意気のとどまることを知らない。

こうして、道内ではどんどん知名度をあげていくらうす海洋深層水だが、今世紀の目標は本州への進出。

「元気がないといわれている北海道に少しでも貢献できる会社にしていきたい」と話す湊屋社長。「素材が良い北海道ならではの商品、道内でなければ作れない商品を提供したいんです」と熱く語った。

らうす海洋深層水の未来はまだまだ力強い。